



九州大学と日本海事協会が「海洋エネルギー資源共同研究部門」を設置 ～海洋エネルギー資源開発のための基盤技術に関する研究を強力に推進～

概要

わが国は四方を海に囲まれており、そこに賦存する海洋エネルギー資源は膨大であるといわれていますが、その利用は必ずしも十分には進んでいません。そこで、九州大学（総長 有川節夫）と一般財団法人 日本海事協会（会長 上田徳）は、組織対応型連携契約を締結の上、本日付けで「海洋エネルギー資源共同研究部門」を本学工学研究院に設置しました。今後、本共同研究部門を核として、海洋エネルギー資源開発のための基盤技術に関する研究を強力に推進してまいります。

背景

わが国は四方を海に囲まれており、その排他的経済水域の面積は世界第6位の広さを誇ります。洋上には、様々な未利用の海洋エネルギー資源が賦存しており、特に洋上風力エネルギーのポテンシャルは膨大ともいわれています。また、わが国周辺の海底下には、メタンハイドレート（メタンハイドレート：メタンを主成分とする化石燃料で「燃える氷」とも呼ばれる）などの未利用のエネルギー資源が眠っていますが、その開発もようやく緒についたばかりです。

エネルギー資源の大半を海外に頼るわが国にとって、これら海洋エネルギー資源の開発を進めることは、わが国のエネルギー自給率の向上に資するだけでなく、世界における海洋開発マーケットへの参入を果たす上でも、極めて重要な意義を持っています。

内容

海洋エネルギー資源開発を進めるためには、海洋開発に関する豊富な知見・経験と学術的基盤の両立が不可欠です。このため、わが国における唯一の国際船級協会であり、船舶及び海洋構造物に関する技術サービスにおいても豊富な実績を有する日本海事協会と、わが国有数の船舶・海洋工学に関する研究拠点を有する本学が組織対応型連携協契約締結の上、「海洋エネルギー資源共同研究部門」を本学工学研究院に設置し、海洋エネルギー資源開発のための基盤技術に関する研究を強力に推進することとしました。

具体的には、主に以下2点について進めてまいります。

- 1) 海洋再生可能エネルギー利用のための基盤技術の開発
- 2) 深海底エネルギー資源開発のための基盤技術の開発

なお、本研究期間には、以下2点の課題を行う予定としています。

- 1) 浮体式洋上風力発電等の浮体式海洋再生可能エネルギー発電の実現に向けた諸課題の解決
- 2) 洋上メタンハイドレート生産プラットフォームの設計・設置・運用に関わる技術課題の調査・研究

事業題目：海洋エネルギー資源開発のための基盤技術に関する研究

事業期間：平成26年4月1日 ～ 平成28年3月31日

事業実施場所：工学研究院海洋システム工学部門

【お問い合わせ】

(研究内容に関わること)

大学院工学研究院

海洋エネルギー資源共同研究部門

教授 宇都宮智昭

電話：092-802-3447

FAX：092-802-3368

E-mail：utsunomiya@nams.kyushu-u.ac.jp

(九州大学 共同研究部門制度に関わること)

九州大学産学官連携本部研究推進グループ

(担当：松園・山内)

電話：092-832-2134

FAX：092-832-2148

E-mail：research@imaq.kyushu-u.ac.jp